

荷主企業アンケート

引き続き海上輸送へのシフト傾向

国際輸送では中国向け高速船の利用や、SEA&AIR複合輸送などの検討も

カーゴニュースでは荷主企業の物流担当者に航空輸送の実態についてアンケートを実施した。近年では航空輸送から海上輸送へとシフトする例が見受けられているが、今回のアンケートの結果でも海上輸送シフトの傾向が引き続き多く見られた。

《国内輸送》

国内輸送における航空の利用状況を聞いたところ、多くの業種で「緊急時のみ」としており、航空利用の割合はコンマ以下に留まっている。ただ、電子機器、IT関連、アパレル製品で比較的高い利用割合だった。

また、国内における今後の利用見通しでは「現状維持」といった声が多く、その利用状況も「台風などによって沖繩向けの船舶が欠航した場合、緊急的に年数回利用」(飲料)とする。

一方で航空の利用割合が多い企業では「トラック輸送にシフト」(電子機器)や、「JALの件もあり、外的要因によって対応を考えざるを得ず1年後の動向は未定」(アパレル)と、JALの経営破綻による廃止・減便の影響を懸念する。

主な回答企業における国内航空輸送の利用状況

業種	主な品目	利用量 (単位:トン)	割合 (単位:%)	今後の見通し
電気機器	電子機器	8000	1.0	トラック輸送にシフト
繊維	バイオ商品	2~5	0.005	増える傾向
繊維	コンタクトレンズ	66900件	データなし	
食品			限りなくゼロ	当面、現状維持
金属	水道用部品 (鋳物)	1	0.01	現状維持
飲料	チルド商品	20	0.002	沖繩向けの船舶欠航時 (台風など)に緊急的に 年数回。今後も必要に応じ 使用
アパレル	衣料品、日用雑貨	240	0.2	変更なし
アパレル	衣料品中心。 段ボール三辺 160サイズ中心	450	25.0	現状維持であるがJAL の件もあり、外的要因で 対応は必須と考えられ、 1年後の動向は未定
IT関連流通	IT関連製品	3655	5.0	変更

主な回答企業における国際航空輸送の利用状況

業種	主な品目	利用量 (単位:トン)	割合 (単位:%)	今後の見通し
輸送用機器		3	1.0	変更なし
電気機器	電子機器	300	90.0	海上輸送にシフト
繊維	機能材、プラスチック、 バイオ商品	10~20	0.1	極力、海上輸送を優先
商社	化学品、機械	7000	データなし	緊急度及び海上運賃との比較 によって変わるので不透明
酒類	ワイン(輸入のみ)	20	4.0	海外需要が拡大しても航空貨物 輸送の積極利用の考えはない
自動車	自動車関連、KD部 品、完成車、販促関 連製品	4000	データなし	航空輸送は海上輸送のバック アップとしての位置付けに変更 は無い。SEA&AIR複合輸送に ついては検討する価値がある
ゴム製品	タイヤ設備、金型、 原材料	300	0.1	急ぎの場合のみ航空輸送をして いる現状に変更なし
化学		20	0.017	原則的には禁じており、今後も 減少するように努力する。基本 は海上輸送
化学	半導体、電極材	50	限りなくゼロ	海上輸送に出来るものはシフト していく
化学	合成ゴム	200	0.1以下	基本は緊急時のみ
化学	電子情報材、その他 サンプル	300	0.02	コストダウンのため20%程度海 上輸送にシフト
化学	光学フィルム、半導体 材料、農業など	4000	1.0	中国向けは高速船に極力切り替 え予定
医薬品卸	医療機器		データなし	変更なし
アパレル	化粧品	50	4.4	現状どおり

《国際輸送》

国際輸送における航空の利用割合も多くの業種で微小に留まっており、緊急時のみの利用が多い。しかしながら、電子機器や部品、半導体材料といった品目で利用の割合が高い。

今後の利用見通しでは多くの企業で「海上輸送に出来るものはシフトしていく」(化学)、「急ぎの場合のみ航空輸送をしている現状に変更なし」(ゴム関連製品)とする。また海上輸送オンリーの企業も「現状維持」という声が多い。

さらに、「コストダウンのため20%程度海上輸送にシフト」(化学)と具体的な数字をあげたほか、「中国向けは高速船に極力切り替え予定」(化学)と、特定仕向け地での海上輸送シフトを予定する。

このほか、「航空輸送は海上輸送のバックアップとしての位置付けに変更は無い」と述べた上で、航空輸送よりもリードタイムは多少長くなるが、そのぶんコストは低く抑えられる「SEA&AIR複合輸送については検討する価値がある」(自動車)と話す。